

## 第三者評価結果入力シート（母子生活支援施設）

種別	母子生活支援施設
----	----------

### ①第三者評価機関名

特定非営利活動法人 きょうと福祉ネットワーク一期一会
----------------------------

### ②評価調査者研修修了番号

SK2021180
2020-1-013
2023-1-017

### ③施設名等

名称：	本願寺ウイスタリアガーデン
施設長氏名：	桐林 三巳
定員：	20名
所在地(都道府県)：	京都府
所在地(市町村以下)：	京都市右京区太秦安井二条裏町15
T E L：	075-811-2447
U R L：	http://wisteria-garden.net
<b>【施設の概要】</b>	
開設年月日	1930/3/1
経営法人・設置主体（法人名等）：	社会福祉法人 本願寺社会福祉事業センター
職員数 常勤職員：	10名
職員数 非常勤職員：	9名
有資格職員の名称（ア）	保育士
上記有資格職員の数：	4名
有資格職員の名称（イ）	公認心理士
上記有資格職員の数：	2名
有資格職員の名称（ウ）	
上記有資格職員の数：	
有資格職員の名称（エ）	
上記有資格職員の数：	
有資格職員の名称（オ）	
上記有資格職員の数：	
有資格職員の名称（カ）	
上記有資格職員の数：	
施設設備の概要（ア）居室数：	20室
施設設備の概要（イ）設備等：	面談室 学童室
施設設備の概要（ウ）：	緊急一時室 2室
施設設備の概要（エ）：	講堂 図書室 調理室 事務室

### ④理念・基本方針

<p><b>【理念】</b>          浄土真宗本願寺派、社会福祉法人本願寺社会福祉事業センターを設置母体とする施設として、浄土真宗のみ教えを旨とし、児童福祉法第38条に基づき、利用者に安らぎの生活環境を提供するとともに早期に社会に自立するように支援活動を行う。</p>
---

### ⑤施設の特徴的な取組

<p>母子の安穩と協調を大切にしながら、生活の向上のために「社会参加」「豊かで文化的な生活の向上」「問題解決のための支援（生活面・養育面・就労面・心理面・家庭環境調整）」を行っている。          （ホームページより）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 心身共に明るく感謝のうちに共に喜び合える生活を送ることができるよう努めています。</li> <li>2 地域と共に歩み社会に貢献できるよう地域交流や諸行事への参加を積極的に行っています。</li> <li>3 一日も早い自立を願って、専門職員を配置して生活支援を行っています。</li> </ol>
---

### ⑥第三者評価の受審状況

評価実施期間（ア）契約日（開始日）	2023/10/7	
評価実施期間（イ）評価結果確定日	2024/9/5	
前回の受審時期（評価結果確定年度）	令和2年度（和暦）	

## ⑦総評

本願寺ウイスタリアガーデンは社会福祉法人本願寺社会福祉事業センターが運営する母子生活支援施設です。ウイスタリアガーデンとは”藤の園”という意味ですが、その歴史は長く、昭和3年に西本願寺仏教社会事業関係者によって西本願寺北山別院境内に開設された母子寮として母子支援事業が始められたものです。その後、現在地に移転し他の母子寮と統合された経過があります。現在、施設は全面改築され、平成5年から定員20世帯の施設で運営されています。利用者が多様化（障害のある利用者、特定妊婦、DVなど）する中で母親と子どもの一人ひとりに寄り添った個別支援を実践されています。また、母親が地域の自治会の役割を担ったり、子どもが検定合格を目指す取り組みを進めるなどできることを増やし自己肯定感を高める支援や主体性を尊重する取り組みも大切にされています。

### ◆特に評価の高い点

○事業計画の策定 計画策定にあたってSWOT分析を実施し、施設の課題・強み弱みを把握して10年計画（R5～R14）の「中長期事業計画書」（現状、課題、方針、期限、責任者等を記載）を策定され、それを元に単年度計画を策定されています。分析から計画策定、見直し、年度計画への改善策の落とし込み等、PDCAサイクルを意識しながら、職員も各場面で参加できる取組みが特に高く評価できます。

○地域との交流、地域貢献 地域との関わりに関しては、基本綱領に明文化しています。施設長が地域の地区会長をするとともに地域の会合にも参加しています。利用者の買い物や通院は手書きの地図を職員が作成して活用しています。また、地域の防災委員に利用者が役員として入り役割を引き受けるなど貢献しています。

○母親と子どもの移行や主体性の配慮 行事について参加してもらいやすようコロナ禍で工夫し、本物を見せる事の大切さから、プロの方の和太鼓演奏をお願いしたこともあります。また、ただの娯楽ではなく、取組みの意図を伝えるようにして、一つ一つの行事には意味合いがあり、夢や希望を語ってほしいと思って取り組んでいる。お母さんだけの行事もあり（しめ縄づくり等）その間はこどもは保育してもらえるように配慮してされています。その他にも子どもの得意な分野（勉強、スポーツ等）に配慮し、興味や関心を伸ばす機会（習字、ピアノ等）を与えるようにしており、自己肯定感を高めることに繋がっています。

### ◆改善を求められる点

福祉人材の確保・育成、人事管理

○倫理綱領に期待する職員像を記載されていますが、人材育成についての仕組みとして人事考課制度がなく、キャリアパスも作成されておらず階層別の職員研修の仕組みがありません。そのため個々の職員の目標管理する仕組みも構築されていません。

施設の課題として、近々想定される職員の定年退職とそれに伴う職員採用があり、近年の児童福祉や女性支援を取り巻く環境の変化、制度の変化に的確に対応するためには専門職の採用や職員の資格取得支援等が望まれます。一人一人の職員の育成のための仕組みの構築が必要ですので、研修計画とリンクさせて作成されると良いでしょう。その際には人事権のある法人本部の主導で、人材確保・育成・定着支援を総合的に進められることを期待します。

○母親と子どもの満足の向上を目的とする仕組みを整備し、取組を行っている。

母の会と子ども会等には職員が出席して、満足度を把握するようにされており、日常の支援の場で利用者の思いを把握する取り組みはされています。しかしながら、定期的なアンケート等による満足度調査は行っておられず、入居者への満足度を把握するための個別の相談もおこなっていないので、その結果分析や検討ができていません。利用者の中には、不満や要望を直接職員に伝えることが苦手な方もいらっしゃると思いますが、アンケート等なら日頃の思いを出しやすいのではないのでしょうか。定期的にアンケートを実施され、その結果を分析・検討し、利用者の満足度がより高まるような具体的な取組みを行う仕組みを検討されてはどうでしょうか。

○支援の継続性とアフターケア 母親と子どもが安定した生活を送ることができるよう、退所後の支援を行っている。

利用者は退所後、近隣に居宅設定される場合がほとんどであり、月1回程度訪問されています。退所者から要請があれば単発で行くこともある他、食品等の寄贈があれば、コミュニケーションアプリで食品提供の情報を流すようにし、取りに来られた際に生活状況の聞き取りをされています。また、施設行事への招待は継続して行っており、こどもへの支援も継続して行っています。

しかしながら、退所後の支援計画が策定できていませんでした。施設としても、その時々の子や母の状況で対応してきた事を計画として策定しておきたいと考えておられ、策定のために担当を決められたと伺いましたので、退所後の支援計画を策定し、アフターケアを充実されることを期待します。

## ⑧第三者評価結果に対する施設のコメント

長期計画の中で職員採用の重要性、人事考課制度の採り入れなどは理解しているが、職場規模が小さいので少数精鋭の運営を考えてしまうことが多い。

職員採用、また人事の案件については、法人本部と連携して取り組んで行きたいと思っています。

## 第三者評価結果（母子生活支援施設）

### 共通評価基準（45項目） I 支援の基本方針と組織

#### 1 理念・基本方針

(1) 理念、基本方針が確立・周知されている。	第三者 評価結果
① 1 理念、基本方針が明文化され周知が図られている。 <input type="checkbox"/> 理念、基本方針が法人、施設内の文書や広報媒体(パンフレット、ホームページ等)に記載されている。 <input type="checkbox"/> 理念は、法人、施設が実施する支援の内容や特性を踏まえた法人、施設の使命や目指す方向、考え方を読み取ることができる。 <input type="checkbox"/> 基本方針は、法人の理念との整合性が確保されているとともに、職員の行動規範となるよう具体的な内容となっている。 <input type="checkbox"/> 理念や基本方針は、会議や研修会での説明、会議での協議等をもって、職員への周知が図られている。 <input type="checkbox"/> 理念や基本方針は、わかりやすく説明した資料を作成するなどの工夫がなされ、母親と子どもへの周知が図られている。 <input type="checkbox"/> 理念や基本方針の周知状況を確認し、継続的な取組を行っている。	a  ○ ○ ○ ○ ○ ○
<b>【コメント】</b> 法人の基本綱領、倫理綱領を定め、職員室に掲示している。職員に配布されている法規集に記載しており、毎週火曜日の職員会議（全員出勤）で唱和し確認している。利用者には月2回の仏参の際に施設長が内容を取り入れた話を行い、理解を深めている。	

#### 2 経営状況の把握

(1) 経営環境の変化等に適切に対応している。	第三者 評価結果
① 2 施設経営をとりまく環境と経営状況が的確に把握・分析されている。 <input type="checkbox"/> 社会福祉事業全体の動向について、具体的に把握し分析している。 <input type="checkbox"/> 地域の各種福祉計画の策定動向と内容を把握し分析している。 <input type="checkbox"/> 母親と子どもの数・母親と子ども像等、支援のニーズ、潜在的に支援を必要とする母親と子どもに関するデータを収集するなど、施設(法人)が位置する地域での特徴・変化等の経営環境や課題を把握し分析している。 <input type="checkbox"/> 定期的に支援のコスト分析や施設入所を必要とする母親と子どもの推移、利用率等の分析を行っている。	a  ○ ○ ○ ○
<b>【コメント】</b> 全国や近畿の大会、研修会、京都母子生活支援施設協議会に参加（月1回の例会等）し情報収集している。行政との調整、情報把握については例会の際に府市行政が参加するため、そこで情報収集把握している。SWOT分析の手法を活用して経営状況の把握分析を行っている。	
② 3 経営課題を明確にし、具体的な取組を進めている。 <input type="checkbox"/> 経営環境や支援の内容、組織体制や設備の整備、職員体制、人材育成、財務状況等の現状分析にもとづき、具体的な課題や問題点を明らかにしている。 <input type="checkbox"/> 経営状況や改善すべき課題について、役員(理事・監事等)間での共有がなされている。 <input type="checkbox"/> 経営状況や改善すべき課題について、職員に周知している。 <input type="checkbox"/> 経営課題の解決・改善に向けて具体的な取組が進められている。	a  ○ ○ ○ ○
<b>【コメント】</b> 施設の課題の一番は職員の確保だと認識している。法人で他に保育園を3か所経営しているが事業所での採用となっている。ハローワーク等の従来の手法では不十分であると認識しており、実習生から大学に繋がり、個別に丁寧に説明に行くことを考えている。しかし、現在、社会福祉社がないために実習生が受け入れられない点も問題の一つである。経営的には満ちるので安定している。（行政からの入所依頼を待つしかない現状がある。）予算・決算と年2回理事会が開催され、共有している。	

### 3 事業計画の策定

(1) 中・長期的なビジョンと計画が明確にされている。	第三者 評価結果
<p>① 4 中・長期的なビジョンを明確にした計画が策定されている。</p> <p><input type="checkbox"/> 中・長期計画において、理念や基本方針の実現に向けた目標(ビジョン)を明確にしている。</p> <p><input type="checkbox"/> 中・長期計画は、経営課題や問題点の解決・改善に向けた具体的な内容になっている。</p> <p><input type="checkbox"/> 中・長期計画は、数値目標や具体的な成果等を設定することなどにより、実施状況の評価を行える内容となっている。</p> <p><input type="checkbox"/> 中・長期計画は必要に応じて見直しを行っている。</p>	<p>a</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>
【コメント】	
<p>SWOT分析を本部から指示があり実施した。課題・強み弱みを把握し、それを受けて10年計画(R5~R14)の「中長期事業計画書」(現状、課題、方針、期限、責任者等を記載)を策定した。それを元に単年度計画を策定している。途中で見直しを行い、理事会に報告している。(計画内容をカテゴライズすればより見やすいでしょう)</p>	
<p>② 5 中・長期計画を踏まえた単年度の計画が策定されている。</p> <p><input type="checkbox"/> 単年度の計画(事業計画と収支予算)に、中・長期計画(中・長期の事業計画と中・長期の収支計画)の内容が反映されている。</p> <p><input type="checkbox"/> 単年度の計画は、実行可能な具体的な内容となっている。</p> <p><input type="checkbox"/> 単年度の事業計画は、単なる「行事計画」になっていない。</p> <p><input type="checkbox"/> 単年度の事業計画は、数値目標や具体的な成果等を設定することなどにより、実施状況の評価を行える内容となっている。</p>	<p>a</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>
【コメント】	
<p>中長期計画を踏まえて単年度計画が策定されている。予算とも連動し、地域課題である地域貢献の取組みが盛り込まれている。</p>	
(2) 事業計画が適切に策定されている。	
<p>① 6 事業計画の策定と実施状況の把握や評価・見直しが組織的に行われ、職員が理解している。</p> <p><input type="checkbox"/> 事業計画が、職員等の参画や意見の集約・反映のもとで策定されている。</p> <p><input type="checkbox"/> 計画期間中において、事業計画の実施状況が、あらかじめ定められた時期、手順にもとづいて把握されている。</p> <p><input type="checkbox"/> 事業計画が、あらかじめ定められた時期、手順にもとづいて評価されている。</p> <p><input type="checkbox"/> 評価の結果にもとづいて事業計画の見直しを行っている。</p> <p><input type="checkbox"/> 事業計画が、職員に周知(会議や研修会における説明等)されており、理解を促すための取組を行っている。</p>	<p>a</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>
【コメント】	
<p>職員に意見をメモ出ししてもらい、それを分類して計画にまとめている。出来上がった計画は年度初めに職員に配布し周知している。年度途中で各担当に状況を聞き取り、まとめたものを本部に報告している。年度末にまとめを作成し、職員に周知するサイクルで進めている。</p>	
<p>② 7 事業計画は、母親と子どもに周知され、理解を促している。</p> <p><input type="checkbox"/> 事業計画の主な内容が、母親と子どもに周知(配布、掲示、説明等)されている。</p> <p><input type="checkbox"/> 事業計画の主な内容を子ども会や母親会等で説明している。</p> <p><input type="checkbox"/> 事業計画の主な内容を分かりやすく説明した資料を作成するなどの方法によって、母親と子どもがより理解しやすいような工夫を行っている。</p> <p><input type="checkbox"/> 事業計画については、母親と子どもの参加を促す観点から周知、説明の工夫を行っている。</p>	<p>b</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>
【コメント】	
<p>利用者への周知の場として母の会があるが、行事計画の周知が中心になっている。また、事業計画のホームページへの掲載はされていない。3月に母の会の役員を決めるために集まりが開催される際に事業計画を周知する工夫(スローガンや重点事項など)をされてはいかがでしょうか。</p>	

#### 4 支援の質の向上への組織的・計画的な取組

(1) 質の向上に向けた取組が組織的・計画的に行われている。		第三者 評価結果
①	8 支援の質の向上に向けた取組が組織的に行われ、機能している。	b
	<input type="checkbox"/> 組織的にPDCAサイクルにもとづく支援の質の向上に関する取組を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 支援の内容について組織的に評価(C:Check)を行う体制が整備されている。	○
	<input type="checkbox"/> 定められた評価基準にもとづいて、年に1回以上自己評価を行うとともに、第三者評価等を定期的に受審している。	
	<input type="checkbox"/> 評価結果を分析・検討する場が、施設として位置づけられ実行されている。	○
【コメント】		
第三者評価は定期的に受診をし、結果については、施設長が職員に説明するとともにパソコンで確認できるようにしている。しかし、年に1回以上行うことになっている自己評価については十分に出来ていないと認識している。第三者評価の項目を絞って、毎年チェックするなどされてはいかがでしょうか。		
②	9 評価結果にもとづき組織として取り組むべき課題を明確にし、計画的な改善策を実施している。	b
	<input type="checkbox"/> 評価結果を分析した結果やそれにもとづく課題が文書化されている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員間で課題の共有化が図られている。	○
	<input type="checkbox"/> 評価結果から明確になった課題について、職員の参画のもとで改善策や改善計画を策定する仕組みがある。	
	<input type="checkbox"/> 評価結果にもとづく改善の取組を計画的に行っている。	
	<input type="checkbox"/> 改善策や改善の実施状況の評価を実施するとともに、必要に応じて改善計画の見直しを行っている。	
【コメント】		
第三者評価の受診結果は職員間で共有しているが、課題を文書化するなど、具体的に改善に取り組むことは出来ない。		

## II 施設の運営管理

### 1 施設長の責任とリーダーシップ

(1) 施設長の責任が明確にされている。		第三者 評価結果
①	10 施設長は、自らの役割と責任を職員に対して表明し理解を図っている。 <input type="checkbox"/> 施設長は、自らの施設の経営・管理に関する方針と取組を明確にしている。 <input type="checkbox"/> 施設長は、自らの役割と責任について、施設内の広報誌等に掲載し表明している。 <input type="checkbox"/> 施設長は、自らの役割と責任を含む職務分掌等について、文書化するとともに、会議や研修において表明し周知が図られている。 <input type="checkbox"/> 平常時のみならず、有事(事故、災害等)における施設長の役割と責任について、不在時の権限委任等を含め明確化されている。	b
【コメント】 コスモスだよりを年2回3月と9月に発行しており、施設長のあいさつを掲載している。地域の役員や措置元、関係行政機関、学校・保育園に配布し、ホームページにも同様のものを掲載している。施設長の役割は就業規則において管理監督を行うと定められており、職務分掌に明確化されている。(定款細則に専決事項を記載)施設長不在時の対応については、主任が担っており、施設長が長期不在の時は委任する文書を作成している。有事の際の不在時の権限については防災関係のフローチャートはあるが、明確化は不十分である。		
②	11 遵守すべき法令等を正しく理解するための取組を行っている。 <input type="checkbox"/> 施設長は、遵守すべき法令等を十分に理解しており、利害関係者(取引事業者、行政関係者等)との適正な関係を保持している。 <input type="checkbox"/> 施設長は、法令遵守の観点での経営に関する研修や勉強会に参加している。 <input type="checkbox"/> 施設長は、環境への配慮等も含む幅広い分野について遵守すべき法令等を把握し、取組を行っている。 <input type="checkbox"/> 施設長は、職員に対して遵守すべき法令等を周知し、また遵守するための具体的な取組を行っている。	a
【コメント】 事業関係の法令順守については研修会等に参加している。労働関係等は届出等労働基準局に提出する際に協議している。法人として社会保険労務士と契約しているが本部との契約なので施設から直接は相談できないこととなっている。建物管理等法律は遵守しており、法令等の職員への周知も行っている。		
(2) 施設長のリーダーシップが発揮されている。		
①	12 支援の質の向上に意欲をもちその取組に指導力を発揮している。 <input type="checkbox"/> 施設長は、支援の質の現状について定期的、継続的に評価・分析を行っている。 <input type="checkbox"/> 施設長は、支援の質に関する課題を把握し、改善のための具体的な取組を明示して指導力を発揮している。 <input type="checkbox"/> 施設長は、支援の質の向上について施設内に具体的な体制を構築し、自らもその活動に積極的に参画している。 <input type="checkbox"/> 施設長は、支援の質の向上について、職員の意見を反映するための具体的な取組を行っている。 <input type="checkbox"/> 施設長は、支援の質の向上について、職員の教育・研修の充実を図っている。 (社会的養護共通) <input type="checkbox"/> 施設長は、職員の模範となるように、自己研鑽に励み、専門性の向上に努めている。	a
【コメント】 朝礼、主任会議、職員会議(ケース会議)、各部署会議(少年)があり、朝礼と職員会議には施設長が参加している。法人の理事会、評議員会や会計会議にも参加している。職員の意見を聞くために年1回は面談を実施している。(次年度のことなど。)職員の研修はまんべんなく参加できるよう配慮している。		

②	13 経営の改善や業務の実効性を高める取組に指導力を発揮している。	a
	<input type="checkbox"/> 施設長は、経営の改善や業務の実効性の向上に向けて、人事、労務、財務等を踏まえ分析を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、施設(法人)の理念や基本方針の実現に向けて、人員配置、職員の働きやすい環境整備等、具体的に取り組んでいる。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、経営の改善や業務の実効性の向上に向けて、施設内に同様の意識を形成するための取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、経営の改善や業務の実効性を高めるために施設内に具体的な体制を構築し、自らもその活動に積極的に参画している。	○

【コメント】

職員の意見を聞き、働きやすい職場づくりに取り組んでいる。勤務シフトは職員に任せているが夜間は宿直+管理宿直の2名体制にするなど職員配置に配慮している。働き方改革にも取組み、有給休暇や子育て休暇の取得を進めており、その他業務改善として、ICTの導入により日誌を手書きからパソコンに変更し、一人1台パソコンを配備しているので情報が共有しやすくなった。

## 2 福祉人材の確保・育成

(1)	福祉人材の確保・育成計画、人事管理の体制が整備されている。	第三者 評価結果
①	14 必要な福祉人材の確保・定着等に関する具体的な計画が確立し、取組が実施されている。	b
	<input type="checkbox"/> 必要な福祉人材や人員体制に関する基本的な考え方や、福祉人材の確保と育成に関する方針が確立している。	○
	<input type="checkbox"/> 支援に関わる専門職(有資格の職員)の配置等、必要な福祉人材や人員体制について具体的な計画がある。	○
	<input type="checkbox"/> 計画にもとづいた福祉人材の確保や育成が実施されている。	
	<input type="checkbox"/> 施設(法人)として、効果的な福祉人材確保(採用活動等)を実施している。	
	(社会的養護共通) <input type="checkbox"/> 各種加算職員の配置に積極的に取り組み、人員体制の充実に努めている。	○

【コメント】

職員の定着率が良いため、新規採用の必要なく推移してきたが、今後の定年退職を見越して人材確保計画の必要性を意識している。人材育成メンバーを3名充て、来年度から職務分担を明確にし、チームを作って対応しようと考えているところである。中長期計画での位置づけも「運営戦略課題シート」に記載しており、組織活性化人材づくりに明記されている。専門職(社会福祉士)の確保が課題と認識している。人材確保育成については、新人用の研修がある。中堅や幹部の育成については情報提供の中から自分で選択して研修参加している。研修参加者一覧で管理している。研修の形態として、①施設内②施設外③SDSがある。※階層別研修を整備されると良いでしょう。

②	15 総合的な人事管理が行われている。	b
	<input type="checkbox"/> 法人、施設の理念・基本方針にもとづき「期待する職員像等」を明確にし、職員自らが将来の姿を描くことができるような総合的な仕組みができています。	○
	<input type="checkbox"/> 人事基準(採用、配置、異動、昇進・昇格等に関する基準)が明確に定められ、職員等に周知されている。	○
	<input type="checkbox"/> 一定の人事基準にもとづき、職員の専門性や職務遂行能力、職務に関する成果や貢献度等を評価している。	
	<input type="checkbox"/> 職員処遇の水準について、処遇改善の必要性等を評価・分析するための取組を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 把握した職員の意向・意見や評価・分析等にもとづき、改善策を検討・実施している。	

【コメント】

期待される人材像は倫理綱領に明文化している。人事基準は就業規則に記載している。しかし、人事考課の仕組みはなく、現時点で法人本部として進める予定はない。職員の採用権限は理事長に集約されており、採用は施設で決めて、任命は本部が行っている。施設長は僧籍のあるものを本部から選任される。男性職員の育成の課題があり、少年指導員の将来を考える必要があると認識している。

(2) 職員の就業状況に配慮がなされている。

①	16 職員の就業状況や意向を把握し、働きやすい職場づくりに取り組んでいる。	a
	<input type="checkbox"/> 職員の就業状況や意向の把握等にもとづく労務管理に関する責任体制を明確にしている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員の有給休暇の取得状況や時間外労働のデータを定期的に確認するなど、職員の就業状況を把握している。	○
	<input type="checkbox"/> 職員の心身の健康と安全の確保に努め、その内容を職員に周知している。	○
	<input type="checkbox"/> 定期的に職員との個別面談の機会を設ける、職員の相談窓口を施設内に設置するなど、職員が相談しやすいような仕組みの工夫をしている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員の希望の聴取等をもとに、総合的な福利厚生を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> ワーク・ライフ・バランスに配慮した取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 改善策については、人材や人員体制に関する具体的な計画に反映し実行している。	○
	<input type="checkbox"/> 福祉人材の確保、定着の観点から、施設の魅力を高める取組や働きやすい職場づくりに関する取組を行っている。	○

【コメント】

職員の希望を把握し、働きやすい職場づくりに配慮している。勤怠管理の中で出来るだけ超勤はしないように時間内に仕事するよう言っており、ダラダラ残ることはない。メンタルヘルスについては臨床心理士に相談できるようにしているが相談はない。主任に相談することが多い。福利厚生は京都府民間社会福祉施設職員共済会に加入している。

(3) 職員の質の向上に向けた体制が確立されている。

①	17 職員一人ひとりの育成に向けた取組を行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 施設として「期待する職員像」を明確にし、職員一人ひとりの目標管理のための仕組みが構築されている。	○
	<input type="checkbox"/> 個別面接を行う等施設の目標や方針を徹底し、コミュニケーションのもとで職員一人ひとりの目標(目標項目、目標水準、目標期限)が明確かつ適切に設定されている。	
	<input type="checkbox"/> 職員一人ひとりが設定した目標について、中間面接を行うなど、適切に進捗状況の確認が行われている。	
	<input type="checkbox"/> 職員一人ひとりが設定した目標について、年度当初・年度末(期末)面接を行うなど、目標達成度の確認を行っている。	

【コメント】

倫理綱領に期待する職員像を記載している。人事考課やキャリアパスが作成されておらず、目標管理する仕組みがない。※一人一人の職員の育成のための仕組みが必要なので、キャリアパスの仕組みを構築して研修とリンクされると良いでしょう。

②	18 職員の教育・研修に関する基本方針や計画が策定され、教育・研修が実施されている。	a
	<input type="checkbox"/> 施設が目指す支援を実施するために、基本方針や計画の中に、「期待する職員像」を明示している。	○
	<input type="checkbox"/> 現在実施している支援の内容や目標を踏まえて、基本方針や計画の中に、施設が職員に必要とされる専門技術や専門資格を明示している。	○
	<input type="checkbox"/> 策定された教育・研修計画にもとづき、教育・研修が実施されている。	○
	<input type="checkbox"/> 定期的に計画の評価と見直しを行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 定期的に研修内容やカリキュラムの評価と見直しを行っている。	○

【コメント】

毎年度の研修年間計画書があり、1年を通じて計画的に研修に参加出来るようにしている。研修内容は毎年見直している。階層別に計画すると良いでしょう。

③	19 職員一人ひとりの教育・研修等の機会が確保されている。	a
	<input type="checkbox"/> 個別の職員の知識、技術水準、専門資格の取得状況等を把握している。	○
	<input type="checkbox"/> 新任職員をはじめ職員の経験や習熟度に配慮した個別的なOJTが適切に行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 階層別研修、職種別研修、テーマ別研修等の機会を確保し、職員の職務や必要とする知識・技術水準に応じた教育・研修を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 外部研修に関する情報提供を適切に行うとともに、参加を勧奨している。	○
	<input type="checkbox"/> 職員一人ひとりが、教育・研修の場に参加できるよう配慮している。	○
	(社会的養護共通) <input type="checkbox"/> スーパービジョンの体制を確立し、職員の専門性や施設の組織力の向上に取り組んでいる。	○

【コメント】

職員のキャリアアップに繋がるような体制確立が課題と認識しており、勤続年数が浅い職員を中心にOJTで教育する仕組みづくりが必要と考えている。スーパービジョンの仕組みについては、外部からは来ていただいているが、臨床心理士がケース会議に参加して必要に応じてアドバイスする仕組みがある。

(4) 実習生等の支援に関わる専門職の研修・育成が適切に行われている。

①	20 実習生等の支援に関わる専門職の研修・育成について体制を整備し、積極的な取組をしている。	a
	<input type="checkbox"/> 実習生等の支援に関わる専門職の研修・育成に関する基本姿勢を明文化している。	○
	<input type="checkbox"/> 実習生等の支援の専門職の研修・育成についてのマニュアルが整備されている。	○
	<input type="checkbox"/> 専門職種の特性に配慮したプログラムを用意している。	○
	<input type="checkbox"/> 指導者に対する研修を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 実習生については、学校側と、実習内容について連携してプログラムを整備するとともに、実習期間中においても継続的な連携を維持していくための工夫を行っている。	○

【コメント】

保育士と介護等体験の実習生の受け入れがある。実習受け入れマニュアルを整備している。学校と連携し専門職種に応じたプログラムを準備している。実習担当者に対する研修としては協議会に参加してもらっている。

### 3 運営の透明性の確保

(1)	運営の透明性を確保するための取組が行われている。	第三者 評価結果
①	21 運営の透明性を確保するための情報公開が行われている。	a
	<input type="checkbox"/> ホームページ等の活用により、法人、施設の理念や基本方針、支援の内容、事業計画、事業報告、予算、決算情報が適切に公開されている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設における地域の福祉向上のための取組の実施状況、第三者評価の受審、苦情・相談の体制や内容について公開している。	○
	<input type="checkbox"/> 第三者評価の受審結果、苦情・相談の体制や内容にもとづく改善・対応の状況について公開している。	○
	<input type="checkbox"/> 法人、施設の理念、基本方針やビジョン等について、社会・地域に対して明示・説明し、法人、施設の実存意義や役割を明確にするように努めている。	○
	<input type="checkbox"/> 地域へ向けて、理念や基本方針、施設で行っている活動等を説明した印刷物や広報誌等を配布している。	○

【コメント】

ホームページやこすもすだよりで収支や事業内容を公表している。これまで苦情らしい苦情はないが、意見・要望として母親と話したことはすべて記録している。母同士のトラブルも記録している。地域への情報発信はこすもすだよりで行っている。

②	22 公正かつ透明性の高い適正な経営・運営のための取組が行われている。	a
	<input type="checkbox"/> 施設(法人)における事務、経理、取引等に関するルール、職務分掌と権限・責任が明確にされ、職員等に周知している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設(法人)における事務、経理、取引等について内部監査を実施するなど、定期的に確認されている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設(法人)の事業、財務について、外部の専門家による監査支援等を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 外部の専門家による監査支援等の結果や指摘事項にもとづいて、経営改善を実施している。	○

【コメント】

経理規程、専決規程を整備し、小口現金取り扱い等決めている。出納担当者が決まっており、毎月補填清算する仕組みがある。内部監査としては法人本部に会計監査部門があり、定期的に税理士が内部監査を実施している。外部の社会保険労務士や公認会計士もおり助言が受けられる仕組みがある。

#### 4 地域との交流、地域貢献

(1)	地域との関係が適切に確保されている。	第三者 評価結果
①	23 母親、子どもと地域との交流を広げるための取組を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 地域との関わり方について基本的な考え方を文書化している。	○
	<input type="checkbox"/> 母親と子どもの個別の状況に配慮しつつ地域の行事や活動に参加する際、必要があれば職員やボランティアが支援を行う体制が整っている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設や母親と子どもへの理解を得るために、地域の人々に向けた日常的なコミュニケーションを心がけている。	○
	<input type="checkbox"/> 母親と子どもの買い物や通院等日常的な活動についても、定型的でなく個々の母親と子どものニーズに応じて、地域における社会資源を利用するよう推奨している。	○
	(母子生活支援施設) <input type="checkbox"/> 学校の友人等が施設へ遊びに来やすい環境づくりを行っている。	○

【コメント】

地域との関わりに関しては、基本綱領に明文化している。施設長が地域の地区会長をしている。また、地域の会合には施設長が参加している。買い物や通院は手書きの地図を作成して活用している。学校の友達が施設に来るのは了承している。

②	24 ボランティア等の受入れに対する基本姿勢を明確にし体制を確立している。	a
	<input type="checkbox"/> ボランティア受入れに関する基本姿勢を明文化している。	○
	<input type="checkbox"/> 地域の学校教育等への協力について基本姿勢を明文化して取り組んでいる。	○
	<input type="checkbox"/> ボランティア受入れについて、登録手続、ボランティアの配置、事前説明等に関する項目が記載されたマニュアルを整備している。	○
	<input type="checkbox"/> ボランティアに対して母親と子どもとの交流を図る視点等で必要な研修、支援を行っている。	○

【コメント】

ボランティアは積極的な受け入れを行っている。受入マニュアルを整備するとともに受け入れにあたってはオリエンテーションを行っている。地域の小学校との連携は、先生と職員同士で行っている。中学校との連携も必要に応じて行っている。

(2) 関係機関との連携が確保されている。

①	25 施設として必要な社会資源を明確にし、関係機関等との連携が適切に行われている。	a
	<input type="checkbox"/> 当該地域の関係機関・団体について、個々の母親と子どもの状況に対応できる社会資源を明示したリストや資料を作成している。	○
	<input type="checkbox"/> 職員会議で説明するなど、職員間で情報の共有化が図られている。	○
	<input type="checkbox"/> 関係機関・団体と定期的な連絡会等を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 地域の関係機関・団体の共通の問題に対して、解決に向けて協働して具体的な取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 地域に適切な関係機関・団体がない場合には、母親と子どものアフターケア等を含め、地域でのネットワーク化に取り組んでいる。	○

【コメント】

区の要保護児童対策地域協議会に参画している。学校や京都母子生活支援施設協議会、区の社会福祉連絡協議会との連携は随時行っている。市のはぐくみ室が作成したパンフレットを活用し、それを入居者全員に配布している。

(3) 地域の福祉向上のための取組を行っている。

①	26 地域の福祉ニーズ等を把握するための取組が行われている。	a
	<input type="checkbox"/> 施設(法人)が実施する事業や運営委員会の開催、関係機関・団体との連携、地域の各種会合への参加、地域住民との交流活動などを通じて、地域の福祉ニーズや生活課題等の把握に努めている。	○
	(社会的養護共通) <input type="checkbox"/> 施設のもつ機能を地域へ還元したり、地域の関係機関・団体との連携等を通して、地域の具体的な福祉ニーズの把握に努めている。	○
	(5種別共通) <input type="checkbox"/> 地域住民に対する相談事業などを通じて、多様な相談に応じる機能を有している。	○

【コメント】

地域の福祉ニーズの把握は要保護児童対策地域協議会、警察、教育委員会、社会福祉連絡協議会に参加して課題の把握に努めている。地域からの相談について、地域から直接あることはあまりない。退去者からの相談にはアフターケアとして乗っている。

②	27 地域の福祉ニーズ等にもとづく公益的な事業・活動が行われている。	a
	<input type="checkbox"/> 把握した福祉ニーズ等にもとづいて、法で定められた社会福祉事業にとどまらない地域貢献に関わる事業・活動を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 把握した福祉ニーズ等にもとづいた具体的な事業・活動を、計画等で明示している。	○
	<input type="checkbox"/> 多様な機関等と連携して、社会福祉分野のみならず、地域コミュニティの活性化やまちづくりなどにも貢献している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設(法人)が有する支援に関するノウハウや専門的な情報を、地域に還元する取組を積極的に行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 地域の防災対策や、被災時における福祉的な支援を必要とする人びと、住民の安全・安心のための備えや支援の取組を行っている。	○

【コメント】

地域の防災委員に利用者が役員として入っている。地域コミュニティの活性化については、地域の役員をするなどして貢献している。園庭も活用できると考えている。施設の特性から積極的に公益的な事業を行いにくいいため、行政等との連携による取組みに期待している。

### Ⅲ 適切な支援の実施

#### 1 母親と子ども本位の支援

(1) 母親と子どもを尊重する姿勢が明示されている。		第三者 評価結果
①	28 母親と子どもを尊重した支援の実施について共通の理解をもつための取組を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 理念や基本方針に、母親と子どもを尊重した支援の実施について明示し、職員が理解し実践するための取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 母親と子どもを尊重した支援の実施に関する「倫理綱領」や規程等を策定し、職員が理解し実践するための取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 母親と子どもを尊重した支援の実施に関する基本姿勢が、個々の支援の標準的な実施方法等に反映されている。	○
	<input type="checkbox"/> 母親と子どもの尊重や基本的人権への配慮について、施設で勉強会・研修を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 母親と子どもの尊重や基本的人権への配慮について、定期的に状況の把握・評価等を行い、必要な対応を図っている。	○
【コメント】 支援理念は倫理綱領に明記し、職員会議で唱和している。支援のマニュアルは、「入所からアフターケアまでの支援」内で整備されている。意思確認をおこなった上で、標準的にマニュアル化されている。人権に関して、月に一回施設長が研修をおこなっている。毎朝の職員会議で基本的人権の配慮は定期的におこなっている。		
②	29 母親と子どものプライバシー保護に配慮した支援が行われている。	a
	<input type="checkbox"/> 母親と子どものプライバシー保護について、社会福祉事業に携わる者としての姿勢・責務等を明記した規程・マニュアル等が整備され、職員への研修によりその理解が図られている。	○
	<input type="checkbox"/> 規程・マニュアル等にもとづいて、プライバシーに配慮した養育・支援が実施されている。	○
	<input type="checkbox"/> 一人ひとりの母親と子どもにとって、生活の場にふさわしい快適な環境を提供し、母親と子どものプライバシーを守るよう設備等の工夫を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 母親と子どもにプライバシー保護に関する取組を周知している。	○
【コメント】 プライバシー保護に関しては、倫理綱領に明記している。マニュアルの整備は前回の調査の後（令和3年）に行った。プライバシーの保護に関しては、日々の支援方法は決まっている。名前に付箋を貼るなど配慮するルールが構築されている。留守中に居室に入るなどの行為に関しては、入居者と合意形成を図ったうえでやっている。ホームページ更新は担当職員が行うが、写真の掲載については、「顔OK、後ろOK、駄目」等確認の上掲載するように徹底している。SNSは慎重にしている。		
(2) 支援の実施に関する説明と同意（自己決定）が適切に行われている。		
①	30 母親と子どもに対して支援の利用に必要な情報を積極的に提供している。	a
	<input type="checkbox"/> 理念や基本方針、支援の内容や施設の特性等を紹介した資料を準備している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設を紹介する資料は、言葉遣いや写真・図・絵の使用等で誰にでもわかるような内容にしている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設に入所予定の母親と子どもについては、個別に丁寧な説明を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 見学等の希望に対応している。	○
	<input type="checkbox"/> 母親と子どもに対する情報提供について、適宜見直しを実施している。	○
【コメント】 「入居心得」にて理念、基本方針、支援の内容などを明文化している。パンフレットにて、施設の紹介資料は整備している。見学希望者には随時見学を実施している。資料やホームページについては、適宜見直しをおこなっている。		

②	31 支援の開始・過程において母親と子どもにわかりやすく説明している。	a
	<input type="checkbox"/> 母親と子どもが自らの課題を可能な限り認識し、施設が行う支援について母親と子どもができるだけ主体的に選択できるよう、よりわかりやすくなるような工夫や配慮をして説明している。	○
	<input type="checkbox"/> 支援の開始・過程における支援の内容に関する説明と同意にあたっては、保護者等の自己決定を尊重している。	○
	<input type="checkbox"/> 支援の開始・過程においては、母親と子どもの同意を得たうえでその内容を書面で残している。	○
	<input type="checkbox"/> 意思決定が困難な母親と子どもへの配慮についてルール化され、適正な説明、運用が図られている。	○

【コメント】

入居者への説明において、共有部分の掲示物やルールなどは、整理整頓され、カテゴリ別で分けられていてわかりやすく説明されている。支援内容についての自己決定について、個別支援計画書にて自立度の相互確認を行っている。意志決定が困難な入居者への配慮について、入居者の特性に合わせた個別対応を行い、自己決定ができるように配慮している。

③	32 支援の内容や措置変更、地域・家庭への移行等にあたり支援の継続性に配慮した対応を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 支援の内容の変更にあたり、従前の内容から著しい変更や不利益が生じないように配慮されている。	○
	<input type="checkbox"/> 他の施設や地域・家庭への移行にあたり、支援の継続性に配慮した手順と引継ぎ文書を定めている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設を退所した後も、施設として母親と子どもが相談できるように担当者や窓口を設置している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設を退所した時に、母親と子どもに対し、その後の相談方法や担当者について説明を行い、その内容を記載した文書を渡している。	○

【コメント】

退所や措置変更などについては、入居者、職員、措置元の3者で話し合いを行い判断している。支援の継続に配慮した引継ぎ文書は、措置元が主として作成している。退所時は、連絡先を渡し継続した支援ができるように配慮している。

(3) 母親と子どもの満足の向上に努めている。

第三者  
評価結果

①	33 母親と子どもの満足の向上を目的とする仕組みを整備し、取組を行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 母親と子どもの満足に関する調査が定期的に行われている。	
	<input type="checkbox"/> 母親と子どもへの個別の相談面接や聴取等が、母親と子どもの満足を把握する目的で定期的に行われている。	
	<input type="checkbox"/> 職員等が、母親と子どもの満足を把握する目的で、母親と子ども会等に出席している。	○
	<input type="checkbox"/> 母親と子どもの満足に関する調査の担当者等の設置や、把握した結果を分析・検討するために、母親と子ども参画のもとで検討会議の設置等が行われている。	
	<input type="checkbox"/> 分析・検討の結果にもとづいて具体的な改善を行っている。	

【コメント】

母の会と子ども会には職員が出席して、満足度を把握するようにしているが、定期的なアンケート等による満足度調査は行っていない。また、入居者への満足度を把握する目的のための個別相談も実施できていないので、その結果分析や検討が出来ておらず、具体的な改善が行えていない。

(4) 母親と子どもが意見等を述べやすい体制が確保されている。

①	34 苦情解決の仕組みが確立しており、周知・機能している。	a
	<input type="checkbox"/> 支援の実施等から生じた苦情に適切に対応することは責務であることを理解し、苦情解決の体制(苦情解決責任者の設置、苦情受付担当者の設置、第三者委員の設置)が整備されている。	○
	<input type="checkbox"/> 苦情解決の仕組みをわかりやすく説明した掲示物が掲示され、資料を母親と子どもに配布し説明している。	○
	<input type="checkbox"/> 苦情記入カードの配布やアンケート(匿名)を実施するなど、母親と子どもが苦情を申し出しやすい工夫を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 苦情内容については、受付と解決を図った記録を適切に保管している。	○
	<input type="checkbox"/> 苦情内容に関する検討内容や対応策、解決結果等については、母親と子どもに必ずフィードバックするとともに、苦情を申し出た母親と子どものプライバシーに配慮したうえで、公開している。	○
	<input type="checkbox"/> 苦情相談内容にもとづき、支援の質の向上に関わる取組が行われている。	○

【コメント】

苦情解決の体制については整備されており、正面玄関の共有部分に掲示されている。苦情に繋がらないようルール化したものとして、入居管理規則、在所者心得を整備している。目安箱を設置して、意見を聞く仕組みを整えている。

②	35 母親と子どもが相談や意見を述べやすい環境を整備し、母親と子どもに周知している。	a
	<input type="checkbox"/> 母親と子どもが相談したり意見を述べたりする際に、複数の方法や相手を自由に選べることをわかりやすく説明した文書を作成している。	○
	<input type="checkbox"/> 母親と子どもに、その文書の配布やわかりやすい場所に掲示する等の取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 相談をしやすい、意見を述べやすいスペースの確保等の環境に配慮している。	○

【コメント】

母親と子どもが相談や意見を述べたりする際のことを在所者心得で文書化している。相談スペースは意見を述べやすいように施設内資源を活用できるよう配慮している。

③	36 母親と子どもからの相談や意見に対して、組織的かつ迅速に対応している。	a
	<input type="checkbox"/> 職員は、日々の支援の実施において、母親と子どもが相談しやすく意見を述べやすいように配慮し、適切な相談対応と意見の傾聴に努めている。	○
	<input type="checkbox"/> 意見箱の設置、アンケートの実施等、母親と子どもの意見を積極的に把握する取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 相談や意見を受けた際の記録の方法や報告の手順、対応策の検討等について定めたマニュアル等を整備している。	○
	<input type="checkbox"/> 職員は、把握した相談や意見について、検討に時間がかかる場合に状況を速やかに説明することを含め迅速な対応を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 意見等にもとづき、支援の質の向上に関わる取組が行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 対応マニュアル等の定期的な見直しを行っている。	○

【コメント】

職員一人に対して母親5人を担当するように分けている。各担当のフォローとして主任が相談を聞ける体制を整えている。相談や意見を受けた際は記録に残し、職員で共有している。また、苦情対応のマニュアルは整備されている。意見を反映した支援の質の向上については、マニュアルの定期的な見直しを行うことで実施している。

(5) 安心・安全な支援の実施のための組織的な取組が行われている。		第三者 評価結果
①	37 安心・安全な支援の実施を目的とするリスクマネジメント体制が構築されている。	b
	<input type="checkbox"/> リスクマネジメントに関する責任者の明確化(リスクマネジャーの選任・配置)、リスクマネジメントに関する委員会を設置するなどの体制を整備している。	○
	<input type="checkbox"/> 事故発生時の対応と安全確保について責任、手順(マニュアル)等を明確にし、職員に周知している。	○
	<input type="checkbox"/> 母親と子どもの安心と安全を脅かす事例の収集が積極的に行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 収集した事例をもとに、職員の参画のもとで発生要因を分析し、改善策・再発防止策を検討・実施する等の取組が行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員に対して、安全確保・事故防止に関する研修を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 事故防止策等の安全確保策の実施状況や実効性について、定期的に評価・見直しを行っている。	
	<b>【コメント】</b> リスクマネジメント委員会は設置していないが、職員会議で共有をおこなっている。フローチャートを作成して職員に周知している。ヒヤリハットは、日々の業務日誌を活用し記録を残すことが出来ており、職員会議で共有している。事故等が発生した場合は、事故報告書に記入している。職員に対する研修としては、毎年救急救命講習を実施している。 事故防止策等の定期的な評価見直しについては、職員会議で定期的実施しており、案件が発生した場合には都度行っているが不十分と認識している。※ヒヤリハットや事故は、業務日誌に残すのではなく、専用書面で残すことが望ましいでしょう。	
②	38 感染症の予防や発生時における母親と子どもの安全確保のための体制を整備し、取組を行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 感染症対策について、責任と役割を明確にした管理体制が整備されている。	
	<input type="checkbox"/> 感染症の予防と発生時等の対応マニュアル等を作成し職員に周知徹底するとともに、定期的に見直している。	○
	<input type="checkbox"/> 担当者等を中心にして、定期的に感染症の予防や安全確保に関する勉強会等を開催している。	
	<input type="checkbox"/> 感染症の予防策が適切に講じられている。	○
	<input type="checkbox"/> 感染症が発生した場合には対応が適切に行われている。	○
<b>【コメント】</b> 感染症対応マニュアル、感染症発生時の対応フローを整備している。しかし、責任者の役割が明確にされておらず、担当者を中心とした勉強会の定期開催が出来ていない。※BCPの整備を早い段階で検討されてはどうか。		
③	39 災害時における母親と子どもの安全確保のための取組を組織的に行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 災害時の対応体制が決められている。	○
	<input type="checkbox"/> 立地条件等から災害の影響を把握し、発災時においても支援を継続するために「事業継続計画」(BCP)を定め、必要な対策・訓練等を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 母親と子ども及び職員の安否確認の方法が決められ、すべての職員に周知されている。	○
	<input type="checkbox"/> 食料や備品類等の備蓄リストを作成し、管理者を決めて備蓄を整備している。	○
<b>【コメント】</b> 災害時の対応マニュアル、緊急連絡網を整備している。備蓄は一週間分整備している。安否確認の方法や避難経路はマニュアルで整備されている。※BCPの整備を早い段階で検討されてはどうか。		

## 2 支援の質の確保

(1) 支援の標準的な実施方法が確立している。		第三者 評価結果
①	40 支援について標準的な実施方法が文書化され支援が実施されている。	b
	<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法が適切に文書化されている。	○
	<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法には、母親と子どもの尊重や権利擁護とともにプライバシーの保護に関わる姿勢が明示されている。	○
	<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法について、研修や個別の指導等によって職員に周知徹底するための方策を講じている。	○
	<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法にもとづいて実施されているかどうかを確認する仕組みがある。	
【コメント】		
プライバシー保護に関わる姿勢は、倫理綱領に明示されている。標準的な実施方法の職員への周知は、研修を実施している。しかし、標準的な実施方法に基づいて実施されているかどうかを確認する仕組みが構築されていない。マニュアルの見直しの際等に実施する際に確認してはどうか。		
②	41 標準的な実施方法について見直しをする仕組みが確立している。	b
	<input type="checkbox"/> 支援の標準的な実施方法の検証・見直しに関する時期やその方法が施設で定められている。	
	<input type="checkbox"/> 支援の標準的な実施方法の検証・見直しが定期的に行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 検証・見直しにあたり、自立支援計画の内容が必要に応じて反映されている。	○
	<input type="checkbox"/> 検証・見直しにあたり、職員や母親と子どもからの意見や提案が反映されるような仕組みになっている。	○
【コメント】		
検証・見直しに関する時期や方法は定められていない。職員会議等を利用して検証見直しを定期的に行うことが望ましい。		
(2) 適切なアセスメントにより自立支援計画が策定されている。		
①	42 アセスメントにもとづく個別的な自立支援計画を適切に策定している。	a
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画策定の責任者を設置している。	○
	<input type="checkbox"/> アセスメント手法が確立され、適切なアセスメントが実施されている。	○
	<input type="checkbox"/> 部門を横断したさまざまな職種の関係職員（種別によっては施設以外の関係者も）が参加して、アセスメント等に関する協議を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画には、母親と子ども一人ひとりの具体的なニーズ、具体的な支援の内容等が明示されている。	○
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画を策定するための部門を横断したさまざまな職種による関係職員（種別によっては組織以外の関係者も）の合議、母親と子どもの意向把握と同意を含んだ手順を定めて実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 支援困難ケースへの対応について検討し、積極的かつ適切な支援が行われている。	○
【コメント】		
自立支援計画策定の責任者は主任である。入居者の情報を集めたものとして、自立支援計画を元に個別支援計画に落とし込んでいる。支援困難ケースについて、児童相談所や京都市はぐくみ室と連携してケースカンファレンスを実施している。		

②	43 定期的に自立支援計画の評価・見直しを行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画どおりに支援が行われていることを確認する仕組みが構築され、機能している。	○
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画の見直しについて、見直しを行う時期、検討会議の参加職員、母親と子どもの意向把握と同意を得るための手順等、組織的な仕組みを定めて実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 見直しによって変更した自立支援計画の内容を、関係職員に周知する手順を定めて実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画を緊急に変更する場合の仕組みを整備している。	○
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画の評価・見直しにあたっては、標準的な実施方法に反映すべき事項、支援を十分に実施できていない内容(ニーズ)等、支援の質の向上に関わる課題等が明確にされている。	○

【コメント】

評価・見直しはほとんどの方は毎月行っている。入居者の生活パターンによっては不定期で行うことがある。変更した自立支援計画は、職員会議にて周知している。緊急に変更する場合は、入居者との合意形成のもと、行う仕組みを整えている。「自立支援計画作成マニュアル」を整備して、質の向上に関わる課題が明確にしている。

(3) 支援の実施の記録が適切に行われている。

①	44 母親と子どもに関する支援の実施状況の記録が適切に行われ、職員間で共有化されている。	b
	<input type="checkbox"/> 母親と子どもの身体状況や生活状況等を、施設が定めた統一した様式によって把握し記録している。	○
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画にもとづく支援が実施されていることを記録により確認することができる。	○
	<input type="checkbox"/> 記録する職員で記録内容や書き方に差異が生じないように、記録要領の作成や職員への指導等の工夫をしている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設における情報の流れが明確にされ、情報の分別や必要な情報が的確に届くような仕組みが整備されている。	○
	<input type="checkbox"/> 情報共有を目的とした会議の定期的な開催等、部門横断での取組がなされている。	○
	<input type="checkbox"/> パソコンのネットワークシステムの利用や記録ファイルの回覧等を実施して、施設内で情報を共有する仕組みが整備されている。	○

【コメント】

記録の作成や保管方法等は仕組み化されている。しかし、記録の書き方に関しては、差異がある。研修の予定があり早期に実施することを望む。

②	45 母親と子どもに関する記録の管理体制が確立している。	b
	<input type="checkbox"/> 個人情報保護規程等により、母親と子どもの記録の保管、保存、廃棄、情報の提供に関する規定を定めている。	○
	<input type="checkbox"/> 個人情報の不適正な利用や漏えいに対する対策と対応方法が規定されている。	○
	<input type="checkbox"/> 記録管理の責任者が設置されている。	○
	<input type="checkbox"/> 記録の管理について個人情報保護の観点から、職員に対し教育や研修が行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員は、個人情報保護規程等を理解し、遵守している。	○
	<input type="checkbox"/> 個人情報の取扱いについて、保護者等に説明している。	○

【コメント】

個人情報保護規程、「個人情報保護マニュアル」を整備している。保管は鍵付きの棚がある。保存は文書保管規定通りに定めている。廃棄はマニュアルに明文化されている。記録管理の責任者は施設長である。入所の際は、個人情報は漏れることが無いことを説明している。しかし、職員に対しての教育や研修は実施できていない。規程整備に関して、施設単独ではなく法人全体での整備を検討されてはいかかが。

内容評価基準（25項目）

A-1 母親と子どもの権利擁護、最善の利益に向けた養育・支援

(1) 母親と子どもの権利擁護	第三者 評価結果
<p>① A1 母親と子どもの権利擁護に関する取組が徹底されている。</p> <p><input type="checkbox"/> 母親と子どもの権利擁護について、規程・マニュアル等が整備され、職員の理解が図られている。</p> <p><input type="checkbox"/> 母親と子どもの権利擁護に関する取組が周知され、規程・マニュアル等にもとづいた養育・支援が実施されている。</p> <p><input type="checkbox"/> 権利擁護に関する取組について職員が具体的に検討する機会を定期的に設けている。</p> <p><input type="checkbox"/> 権利侵害の防止と早期発見するための具体的な取組を行っている。</p> <p><input type="checkbox"/> 必要に応じて、関係機関等と連携を図り対応している。</p> <p><input type="checkbox"/> 母親と子どもの思想・宗教の自由を保障している。</p>	<p>b</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>

【コメント】

権利擁護についての取り組みは以前に基幹的職員の研修で以前に実施した。わかりやすく落としとしていくことが難しいと感じている。権利ノートの活用はしていない。（職員が勉強しないと出来ないのでは、まだ出来ない。）思想・宗教の自由は保障されており、浄土真宗の教義を押し付けることはない。

(2) 権利侵害への対応	
<p>① A2 いかなる場合においても、職員等による暴力や脅かし、人格的辱め、心理的虐待、セクシャルハラスメントなどの不適切なかかわりが起こらないよう権利侵害を防止している。</p> <p><input type="checkbox"/> 不適切なかかわりがあった場合を想定し、施設長が職員と利用者の双方に事実確認や原因の分析等を行うことや「就業規則」等の規程に基づいて厳正に処分を行う仕組みがつけられている。</p> <p><input type="checkbox"/> 不適切なかかわりの起こりやすい状況や場面について、具体的な例を示しながら、研修や話し合いを行い、職員による不適切なかかわりを行わないための支援技術を習得させている。</p> <p><input type="checkbox"/> 不適切なかかわりの禁止を職員等に徹底するため、日常的に会議等で取り上げ、行われていないことを確認している。</p> <p><input type="checkbox"/> 職員からの暴力や言葉による脅かしなどの、不適切なかかわりが発生した場合に対応するためのマニュアル等を整備し、規程に基づいて厳正に対応している。</p> <p><input type="checkbox"/> 不適切なかかわりや暴力を見たり聞いたりしたら、管理者等に報告することを義務付けている。</p>	<p>a</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>

【コメント】

就業規則にパワハラ、セクハラ禁止について規定されている。施設利用者等も含めて記載されている。

<p>② A3 いかなる場合においても、母親や子どもが、暴力や脅かし、人格を辱めるような不適切な行為を行わないよう徹底している。</p> <p><input type="checkbox"/> 不適切な行為の防止について、具体的な例を示して、母親と子どもに周知している。</p> <p><input type="checkbox"/> 不適切な行為に迅速に対応できるように、母親と子どもからの訴えやサインを見逃さないよう留意している。</p> <p><input type="checkbox"/> 不適切な行為の防止を徹底するため、日常的に会議等で取り上げ、行われていないことの確認や職員体制の点検と改善を行っている。</p> <p><input type="checkbox"/> 不適切な行為を伴わない人とのかかわりについて、母親や子どもに伝え、良好な人間関係の構築を図っている。</p>	<p>a</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>
---	--

【コメント】

入居者のガイドラインに施設内での不適切な行為について具体例を挙げて記載している。不適切な事案が発生した場合は、個別に呼び出して注意するようにしている。

③	A4 子どもに対する暴力や脅かし、人格を辱めるような不適切なかかわりの防止と早期発見に取り組んでいる。	a
	<input type="checkbox"/> 不適切なかかわりに迅速に対応できるように、子どもからの訴えやサインを見逃さないよう留意している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもが自分自身を守るための知識・具体的方法について学習する機会を設けている。	○
	<input type="checkbox"/> 不適切なかかわりを伴わない子育てについて母親に伝え、良好な親子関係の構築を図っている。	○
	<input type="checkbox"/> 常に親子関係の把握に努め、適切な助言や支援を行っている。	○

【コメント】

子どもへの虐待防止としては、子どもからの訴えやサインに気を付けている。性教育は専門の先生にお願いして研修を実施した。指導員から子どもには年齢等に応じて話している。

(3) 母親と子どもの意向や主体性の配慮

①	A5 母親や子どもが、自分たちの生活全般について自主的に考える活動（施設内の自治活動等）を推進し、施設における生活改善に向けて積極的に取り組んでいる。	a
	<input type="checkbox"/> 子ども自身が自分たちの生活全般について、自主的・主体的な取組ができるような活動（施設内の自治会活動等）を母親の理解のもとで実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもが問題や課題について主体的に検討し、その上で取組、実行、評価するといった内容を含んだ活動を母親の理解と協力のもと実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 活動を通して、子どもの自己表現力、自律性、責任感などが育つよう必要な支援をしている。	○
	<input type="checkbox"/> 母親が自らの権利を学び、自主的に自分の生活を改善していく力を養えるよう支援している。	○
	<input type="checkbox"/> 母親の自治会活動等を通して、母親の自己表現力、自律性、責任感などに対する支援を行っている。	○

【コメント】

自治活動として「母の会」がある。施設内での問題についての協議や施設内の行事について話し合う場となっている。地域の役を利用者が担えるように配慮し、力を発揮出来るようにしている。褒めて自己肯定感を高めるような関わりをするように配慮している。

(4) 主体性を尊重した日常生活

①	A6 日常生活への支援は、母親や子どもの主体性を尊重して行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 母親や子どもの自尊心や強みを大切に支援を行い、自己肯定感が回復し高まるような支援を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 母親と子どもに対してストレングスの視点に基づいて、エンパワメントしていく支援を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 常に母親と子どもの主体性を尊重した支援を通して、その人が力を発揮できるよう支援を行っている。	○

【コメント】

高校教育を受けていない方に高卒資格取得を支援することがある。生涯教育活動で母親の興味関心の幅を広げるようにしている。母親が学ぶことで子どもからの発信を掴めるようになる。地道な取り組みを大切に母親の感覚を養うよう努めている。母親の変化を感じる事もある。ちょっとした機会をとらえて参加して貰うことで積極性が出るようになる。（例：キンパ作り）

②	A7 行事などのプログラムは、母親や子どもが参画しやすいように工夫し、計画・実施している。	a
	<input type="checkbox"/> 母親や子どもが施設での生活を楽しめるような企画を用意している。	○
	<input type="checkbox"/> 母親と子どもの主体的な参画を前提とした行事・プログラムを用意している。	○
	<input type="checkbox"/> 母親向けのプログラムでは、母親が安心して参加し楽しめるように、保育などのサポートを行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 母親や子どもの状況を考慮し、参加しやすいように内容・時間等を工夫している。	○
	<input type="checkbox"/> 行事等の実施後に、評価を行い次回の実施につなげている。	○

【コメント】

参加してもらいやすようコロナ禍で工夫した。本物を見せる事の大切さから、プロの方の和太鼓演奏をお願いしたこともある。忙しいという人もいるので強制的ではない。また、ただの娯楽ではなく、取組みの意図を伝えるようにしている。一つ一つの行事には意味合いがあり、夢や希望を語ってほしいと思って取り組んでいる。お母さんだけの行事もある（しめ縄づくり等）その間はこどもは保育してもらえるように配慮している。

(5) 支援の継続性とアフターケア

①	A8 母親と子どもが安定した生活を送ることができるよう、退所後の支援を行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 退所後の支援が効果的に行われるよう、退所後の支援計画を作成している。	
	<input type="checkbox"/> 退所した地域で安定して暮らすために、必要に応じて退所先の行政機関をはじめ、多様な地域の関係機関や団体とネットワークを形成し、母親と子どもが適切な支援が受けられるようにしている。	○
	<input type="checkbox"/> 退所後も電話や来所によって施設に相談できることを母親と子どもに説明し、生活や子育て等の相談や施設機能を活用した(学童保育・学習支援・施設行事への招待等)支援を提供している。	○
	<input type="checkbox"/> 退所後の生活が安定していることを確認するための往訪や架電等の取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 必要に応じて退所先に往訪し、介助や同行・代行等の支援を行っている。	○

【コメント】

退所後の支援計画が策定できていないので、策定のために担当を決めた。その時々の子どもの状況で対応してきた事を計画として策定しておきたいと考えている。退所後、訪問している（月1）。退所者から要請があれば必要に応じて行くこともある。食品等の寄贈があれば、コミュニケーションアプリで食品提供の情報を流すようにし、取りに来られた際に生活状況の聞き取りをしている。アフターケアの期間は特に決めていない。施設行事への招待は継続して行っている。不登校の子どもへの支援も行っている。

## A-2 支援の質の確保

(1) 支援の基本		第三者 評価結果
①	A9 母親と子どもそれぞれの個別の課題に対応して、専門的支援を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 母親と子どもがそれぞれ抱える個別の課題に対して、目的や目標を明確にし計画的で一貫した専門的支援を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 母親と子どもの課題を正しく理解し、親子・家庭のあり方を重視した支援を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 母親と子どもが、自己の意思で課題を解決できるように個々の気持ちに寄り添った支援を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 資料等を使いながら、必要な手続きをわかりやすく説明し、必要に応じて職員が機関等への同行及び代弁を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 専門的な支援を行うために、その支援に必要な資格や経験等を考慮した職員を配置し、職員間で連携・協議を行っている。	○
【コメント】		
個別対応職員を配置しており、音楽療法（ピアノ、ハンドベル）に取り組んでいる。外国後の通訳や翻訳が必要な方がいるため、英語、タガログ語の翻訳等実施した。臨床心理士がプレイセラピーやカウンセリングを行っており、支援のまとめを日誌に貼るようしており、職員間で情報共有して支援に活かしている。		
(2) 入所初期の支援		
①	A10 入所に当たり、母親と子どもそれぞれのアセスメントに基づき、生活課題・ニーズを把握し、生活や精神的な安定に向けた支援を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 入所直後は心理的に不安になりやすいため、信頼関係の構築に心がけ、心の安定に向けた相談支援に努めている。	○
	<input type="checkbox"/> 母親と子どもが安心して施設を利用し、課題の解決に向かえるように、関係機関等と連携して情報提供に努めている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもが保育所・学校に速やかに入所・通学できるよう支援している。	○
	<input type="checkbox"/> 必要に応じて、生活用具・家財道具等の貸し出しを行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 居室は、母親と子どもが生活するために必要な十分なスペースが確保され、プライバシーに配慮したものとなっている。	○
	<input type="checkbox"/> 身体に障害のある母親や子どもに対しても、安全に生活ができるように配慮している。	○
【コメント】		
「入居心得」を配布している。また、地域での生活に便利のように手書きのマップを準備している。すぐに生活が出来るよう、必要な道具や寝具、食品を施設で用意している。身体障害児者の受け入れもあり、合理的配慮をしている。（鈴をつける、点字ブロック、手すり等）保育園の入所は依然と比べると入りやすくなっている。必要に応じて手続き等に同行している。		
(3) 母親への日常生活支援		
①	A11 母親が、安定した家庭生活を営むために必要な支援を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 生活経験に乏しい母親には、職員と共に行うことで経験を補う等の支援を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 心やからだの健康に不安を持つ母親には、相談に応じたり、医療機関への受診を促したりするとともに、栄養管理等の食生活への支援を行うなど、ニーズに応じた健康管理のための支援を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 必要に応じて、衣服の清潔保持や入浴など、気持ちよく暮らすために必要な衛生面への支援を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 経済的に安定した生活を送るために、必要に応じて家計の管理、将来に向けた貯蓄等の相談や支援を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 支援の必要性やニーズに応じて、家事・育児等、日常生活全般について、代行や介助等の支援を行っている。	○
【コメント】		
一緒にやるという姿勢を基本として必要に応じて掃除、調理を手伝うなど配慮している。与える支援だけでは駄目と考えており、良いところを褒めたり、利用者がしたことへ喜び支援を意識し、そういうエピソードを職員と共有するようになっている。		

②	A12 母親の子育てのニーズに対応するとともに、子どもとの適切なかわりができるよう支援している。	a
	<input type="checkbox"/> 母親の育児に関する不安や悩み等の発見に努め、その軽減に向けた相談や助言、介助等を行うとともに、必要に応じて保育の提供や保育所へつなぐ等の支援を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 母親の状況に応じ、子どもの保育所・学校等への送迎の支援を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 母親が子どもを客観的に理解できるように、発達段階や発達課題について示し、適切な子育てやかかわりについてわかりやすく説明している。	○
	<input type="checkbox"/> 虐待や不適切なかかわりを発見した時は職員が介入し、必要に応じて専門機関との連携を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 必要に応じて、子どもが通う保育所や学校と連携している。	○

【コメント】

不登校児に対して学校と連携して送迎を行っている。母親と担任がしっかり話せるように配慮している。母親や子どもの思いを代弁することもある。

③	A13 母親が安定した対人関係を築くための支援を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 母親が職員とつながっていることを実感できるよう、様々な場面で気軽に声をかけたり、相談に応じるなどの取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設を自分の居場所として感じられるように、母親どうしが集うための機会や場を設け、交流を促すなど、関係づくりのための支援を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 対人関係がうまくできない母親には、母親のペースに合わせた関係性の構築に配慮を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 社会との関係をとることの難しさから対人関係にストレスを生じている場合は、そのストレスの軽減が図られるよう、心理療法を行ったり相談に応じたりしている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設内の他の母親や子どもとの間でトラブルが生じたときに、その関係性を修復もしくは改善するための支援を行っている。	○

【コメント】

精神疾患の方の薬の管理をすることがある。職員の目の前で飲んでもらう。薬を飲んでいないように思われたケースもあり医療機関と連携し対応をした。ストレスを感じている人には施設のカウンセラーが相談に応じている。コロナで中断していたが、母の会を再開した。施設内でのトラブル（金銭等）もあるが、職員間で問題を共有し善後策を協議している。また、地域の役をする等の経験から母親同士のつながりが出来ていくことがある。

(4) 子どもへの支援

①	A14 健やかな子どもの育ちを保障するために、養育・保育に関する支援を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 子どもの成長段階、発達段階に応じた養育支援を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 放課後の子どもの生活の安定や活動を保障し、活動場所、プログラム等を用意するとともに、日常生活上必要な知識や技術の伝達、遊びや行事等を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> DVを目撃した子どもを含め、被虐待児等や発達障害を含む様々な障害等の特別な配慮が必要な子どもに対しては、必要に応じて個別に対応し、子どもの状況に応じた支援を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 母親のニーズや状況に応じて、施設内の保育支援や保育所への送迎、通院の付き添いなどの支援を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設内における養育・保育に関する記録を整備し、支援に役立てている。	○

【コメント】

子どもの状況によってさまざまな経験できるようにと考えている。支援者の得意分野を活かしてフットサル、習字などを行っている。各種検定を受けるよう配慮しており、自己肯定感を高める事が出来るよう工夫している。（合格状況の貼り出しなど）

②	A15 子どもが自立に必要な力を身につけるために、学習や進路、悩み等への相談支援を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 落ち着いて学習に取り組める環境を整え、年齢に応じた適切な学習支援を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 学習の習慣を身につけるとともに、学習への動機づけを図っている。	○
	<input type="checkbox"/> 進学や就職への支援について、母親と子ども双方の意向をくみ取り、学校と連携して情報提供を行いながら、具体的な目標を定めている。	○
	<input type="checkbox"/> 学費の負担軽減のため、各種の奨学金や授業料の減免制度等の活用への支援を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 学習指導のために学習ボランティア等の協力を得ている。	○
	<input type="checkbox"/> 子ども一人一人の個性を重視した相談・支援を行っている。	○

【コメント】

学習支援は、まず机に座って宿題する所からの支援になる。進学を目指している場合は塾に通う子どももいる。奨学金の情報提供も行っている。学習も職員が支援しているが、それが職員自身の自信にもつながっている。キャンプも独自にやっている。(2泊3日で計画)学習ボランティアは現在は受け入れていない。母親も学習に関わるよう配慮しており、確認や読み聞かせなどは母親の役割だと指導している。

③	A16 子どもに安らぎと心地よさを与えられるおとなのかかわりや、子どもどうしのつきあいに配慮して、人との関係づくりについて支援している。	a
	<input type="checkbox"/> 母親以外のおとなにも受け入れられたり、甘えられたりする経験を増やし、おとなとの信頼関係が構築できるよう支援している。	○
	<input type="checkbox"/> ボランティアや実習生など、様々なおとなとの出会うの機会を設け、多様な価値観、生き方への理解をすすめている。	○
	<input type="checkbox"/> 悪意や暴力のないおとなモデルを提供することで、おとなに信頼感を持てるよう支援している。	○
	<input type="checkbox"/> 自分の気持ちをこぼす適切な表現し相手に伝えることについて、日常生活の中でその方法を意識的に伝え、その能力が向上するよう支援している。	○
	<input type="checkbox"/> 専門的なプログラムに基づいたグループワークを積極的に取り入れている。	○

【コメント】

児童に伝統工芸をされている方に来ていただいて、指導してもらっている。(年1回)母親にもヒップホップなど、講師に専門の先生に来てもらうことがあるが、職員がネットで探して依頼するようにしている。また、自治体の行事や施設の行事などを通じて地域の理解や大人との関わりの機会を設けている。

④	A17 子どもの年齢・発達段階に応じて、性についての正しい知識を得る機会を設け、思いやりの心を育む支援を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 性をタブー視せず、子どもの疑問や不安に正確な知識を持って応えている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員間で性教育に関する知識や、性についてのあり方などの学習会を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 年齢、発達段階に応じて、性についての正しい知識、関心が持てるよう支援している。	○
	<input type="checkbox"/> 年齢に応じた性教育の計画があり、正しい性知識を得る機会を設けている。	○
<input type="checkbox"/> 必要に応じて外部講師を招く等して、性教育のあり方について学習会などを職員や子どもに対して実施している。	○	

【コメント】

性の問題については外部から講師を招いて職員が学習し、それを職員から児童に研修するようにしている。講師から絵本を紹介してもらい、年間計画を立て、男女年齢に配慮した指導を行っている。アスペルガーなど特性がある子どもへの指導に難しさを感じている。

(5) DV被害からの回避・回復

①	A18 母親と子どもの緊急利用に適切に対応する体制を整備している。	b
	<input type="checkbox"/> 緊急時に備えて、夜間でも対応できる体制を構築している。	○
	<input type="checkbox"/> 24時間の受け入れや広域利用など、広く母親と子どもの緊急利用を受け入れている。	○
	<input type="checkbox"/> 役割分担と責任の所在を明確にし、配偶者暴力相談支援センター・警察署・福祉事務所等との連絡調整体制を整えている。	○
	<input type="checkbox"/> 緊急時対応マニュアルを作成・整備している。	
	<input type="checkbox"/> 緊急利用のための生活用品等を予め用意している。	○

【コメント】

緊急一時保護について委託契約を結んでいるが、実際の受け入れ実績はない。受け入れ用の部屋や生活用品は準備しており、夜間も宿直が連絡を受け、対応出来るようにしている。しかし緊急時対応マニュアルは作成されていない。

②	A19 母親と子どもの安全確保のために、DV防止法に基づく保護命令や支援措置が必要な場合は、適切な情報提供と支援を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 保護命令制度や支援措置・DV相談証明の活用について、情報提供を行うとともに、必要に応じて法的手続きのための同行等の支援を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 弁護士や法テラスの紹介や調停・裁判などへの同行等、さらに必要に応じて代弁等の支援を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> DV加害者に居所が知れ、危険が及ぶ可能性がある場合には、母親と子どもの意向を確認した上で、速やかに関係機関と連携し、保護命令の手続きや他の施設への転居等の支援を行っている。	○

【コメント】

弁護士や法テラスへの繋ぎは頻繁に行っており、必要に応じて職員が同行したり代弁したりしている。他府県の弁護士との連携もしている。所在がわかる等危険の可能性がある場合には措置元に連絡をして、変更をお願いする事もある。

③	A20 心理的ケア等を実施し、DVの影響からの回復を支援している。	a
	<input type="checkbox"/> DVについての正しい情報と知識を提供し、DV被害者の理解を促し、自己肯定感を回復するための支援を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> DVから脱出することができたことを評価し、安心し安定した生活と幸せな未来について、職員と一緒に考え支援することを伝えている。	○
	<input type="checkbox"/> 心理療法を活用し、医師やカウンセラーと情報交換を行いながら、より適切な支援を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 必要に応じて、自助グループや外部の支援団体等の紹介を行っている。	○

【コメント】

心理的ケアについてはカウンセラーや医療機関に繋ぐようにしている。診療内科は連携している所がある。その他、必要な場合は外部支援団体に繋ぐこともある。

(6) 子どもの虐待状況への対応

①	A21 被虐待児に対しては虐待に関する専門性を持ってかわり、虐待体験からの回復を支援している。	a
	<input type="checkbox"/> 暴力によらないコミュニケーションを用いるおとなのモデルを職員が示している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもと個別に関わる機会を作り、職員に自分の思いや気持ちを話せる時間を作っている。	○
	<input type="checkbox"/> 子ども一人ひとりがかけがえない大切な存在であることを伝えることや、感情表現を大切にすることで、自己肯定感や自尊心の形成に向けた支援を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 医療機関や児童相談所などの関係機関と必要な情報の交換を行いながら、より適切な支援を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 心理療法担当職員によるカウンセリング等の専門的ケアを実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 被虐待児に対する支援の専門性を高めるための職員研修等を行っている。	○

【コメント】

被虐待児には必要に応じて臨床心理士がプレイセラピー等の関わりを行っている。指導員から事前に母親に話をし、了解が得られればプレイセラピーに通うこととしている。その他にも子どもの得意な分野（勉強、スポーツ等）に配慮し、興味や関心を伸ばす機会（習字、ピアノ等）を与えるようにしており、自己肯定感を高めることに繋がっている。

(7) 家族関係への支援

①	A22 母親や子どもの家族関係の悩みや不安に対する相談・支援を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 母親の家族関係の悩みや不安を受け止め、相談に応じている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの家族関係の悩みや不安を受け止め、相談に応じている。	○
	<input type="checkbox"/> 家族の中に感情の行き違いや意見の相違がある場合、適切に介入し調整を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 必要に応じて、他の親族との関係調整を行っている。	○

【コメント】

仏参を7時半から行っており、その際に施設長がわかりやすく話している。学童だけの仏参がある。子どもたちの言葉遣いが荒い時には、「ことばが凶器になる」というような話をする。こどもの不満もあるが、子ども自身は母親の悪いことは言わないので、こどもが我慢していると感じることもある。親族との関係調整についてはもっとしたいと思っている。直接は出来ないで、措置元を通じて依頼している。中には再婚したいと言う方もいるが、相手を連れてきてと言ったことがある。

(8) 特別な配慮が必要な母親、子どもへの支援

①	A23 障害や精神疾患、その他の配慮が必要な母親と子どもに対する支援を適切に行い、必要に応じて関係機関と連携している。	a
	<input type="checkbox"/> 社会資源の積極的な活用をするための支援を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 公的機関や就労先、保育所や学校等と連携した支援を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 精神疾患があり、心身状況に特別な配慮が必要な場合、同意を得て主治医との連携のもと、通院同行、服薬管理等の療養に関する支援を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 障害や精神疾患がある場合や外国人の母親や子どもへは、必要に応じて公的機関、就労先への各種手続きの支援を行ったり、保育所、学校等、他機関と連携し情報やコミュニケーション確保の支援を行っている。	○

【コメント】

子どもについては、学校や保育所との連携を重視している。就労先との連携や社会資源を開拓したい思いがある。精神疾患ある方の受け入れ可能な事業所もリストアップしたいと考えている。

(9) 就労支援

①	A24 母親の職業能力開発や就労支援を適切に行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 母親の心身の状況や能力・適性・経験・希望に配慮した支援を行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 資格取得や能力開発のための情報提供や支援を行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 公共職業安定所以外にも、パートバンクや母子家庭等就業・自立支援センター等、様々な機関との連携や調整、必要に応じて、同行や職場開拓等の支援を行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 母親が安心して就労できるように補完保育(残業や休日出勤時の保育等)、病後児保育、学童保育などを行っている。	<input type="radio"/>

【コメント】

職場開拓や資格取得についての情報収集に気を付けている。具体的な支援としては、ハローワークへの同行や履歴書の書き方指導、高卒資格取得の支援がある。パソコン教室やテルサのひとり親自立支援センターの利用、面接の仕方の練習。その他ヘルパーや社会福祉士の資格取得について紹介したり、CADや宅建、医療事務等生活保護から費用を負担されるものを活用している。

②	A25 就労継続が困難な母親への支援を行い、必要に応じて職場等との関係調整を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 職場環境、人間関係に関する相談や助言など、個々に対応した幅広い支援を行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 母親が望む場合、就労継続のために職場との関係調整を行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 障害がある場合や外国人の母親の場合、その心身等の状態や意向に配慮しながら、就労の継続に向けての支援を行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 就労継続が困難な母親を積極的に受け入れている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 必要に応じて福祉的就労の活用を図っている。	<input type="radio"/>

【コメント】

受入れにあたっては、措置元と本人の意向を尊重しており、就労が困難な方も受け入れを拒まず、必要に応じて福祉的就労の活用にも配慮している。